【R6年度】重点目標の取組・概要(木材港地区貯木場の利活用の検討[港湾振興事業])

担当課(内線)	産業政策課(内線2904)	重点目標の方向性	地域経済の軸となる産業・観光の活性化
重点目標	経済・交流が活発な岸和田の実現	行政の役割	企業誘致や創業を支援する

現状と課題

- ・原木輸入量の減少により貯木場(約76ha)が未活用水面となっている。
- ・遊休水面を活用した新規土地造成による、産業用地の創出及び研究機 関・企業の誘致など地域振興に資するエリアとして広大な土地の有効 活用が期待される。

R6年度の事業費(内訳)

委託料 4,000,00円(右記調査等の支援委託)

課題に対する取組の内容(めざす成果・期間・対象者・手法など)

【中期的(4~5年後)にめざす成果】

・現時点では事業内容、事業主体などが未決定のため未定。

【成果に向けての各年度の進め方】

- ・現時点では事業内容、事業主体などが未決定のため未定。
- ※埋立事業の一般的な年次スケジュールは木材港地区貯木場利活用ビジョンに記載のとおり

【R6年度の取組内容(期間・対象者・手法など)】

- ①木材コンビナート貯木場埋立検討予備調査支援業務 大阪府(大阪港湾局)が実施する木材コンビナート貯木場埋立検討予備 調査(環境アセスメント調査)と連携し、埋立検討に必要な調査・支援 を実施する。
- ②大阪府や忠岡町など関係機関との協議・検討を進める。

R7年度以降の想定事業費(ランニング経費)

大阪府や忠岡町など関係機関との協議・検討状況及び各 種調査結果をふまえ、取組内容を決定する。

取組の進捗・成果を測る指標

土地利用方針など事業の方向性等が確定次第、 指標を設定する。 成果・指標が未達成の場合の取扱い

※必ず縮小・廃止時期を記載すること

【R6年度】重点目標の取組・ロジックモデル(木材港地区貯木場の利活用の検討[港湾振興事業])

ロジックモデル【事業立案時点】					
・現時点では事業内容、事業主体などが未決定のため未定。					
その他(財源、他団体の状況、行政サービスとしての適正性について など)					

【R6年度】重点目標の取組・評価シート① (木材港地区貯木場の利活用の検討[港湾振興事業])

■ 中期的にめざす成果に対する達成度



- (めざす成果は後年度に設定)
- R6年度における達成度(当初の実施予定に対する達成度)



- ・ 木材コンビナート貯木場埋立検討予備調査 支援業務大阪府(大阪港湾局)が実施する 木材コンビナート貯木場埋立検討予備調査 (環境アセスメント調査)と連携し、埋立 検討に必要な調査・支援を実施する。
- ・ 大阪府や忠岡町など関係機関との協議・検討を進める。

■ R6年度において実施・実現できたこと

- ・ 木材コンビナートの利活用に向けた検討会まちづくり 部会 1回
- ・ 府・市町担当者会議 1回
- 岸和田市環境影響評価専門委員会 1回

■ 主な「取組の進捗・成果を測る指標」の状況

測定有無	指標名	単位	基準値(年次)	目標値(年次)	R 6 年度実績値
	(指標は後年度に設定)				

【R6年度】重点目標の取組・評価シート②(木材港地区貯木場の利活用の検討[港湾振興事業])

■ R6年度において実施・実現できなかったこと

今年度の進捗状況における必要な調査の検討を行ったが、 現時点で必要となる内容が明確ではないため調査は実施 していない。

■ 課題分析

- 大阪府全体の産業用地不足をはじめとした、広域的課題に対応するための土地利用の検討が必要。
- 管理者である大阪府と課題や情報を共有し、埋立後の土地利用方針の検討を進めることが必要。

■ ロジックモデルの振り返り

• ここから記入

■ 次年度以降の予定・改善内容

- 木材港地区貯木場の利活用に向けて、必要な調査及び大阪府や忠岡町など関係機関との協議・検討を進める。
- 木材港地区貯木場の土地のポテンシャルを考慮すると、市町 を超えた広域的な視点からの利活用を更に検討する必要がある。